

車持朝臣千年の作る歌一首 并せて短歌

九一三番

うまこり あやにともしく 鳴る神の 音のみ聞
きし み吉野の 真木立つ山ゆ 見下ろせば 川
の瀬ごとに 明け来れば 朝霧立ち 夕されば
かはづ鳴くなへ 紐解かぬ 旅にしあれば 我の
みして 清き川原を 見らくし惜しも

反歌一首

九一四番

滝の上の 三船の山は 恐けど 思ひ忘るる 時
も日もなし

或本の反歌に曰く

九一五番

千鳥鳴く み吉野川の 川の音の 止む時なしに
思ほゆる君

九一六番

あかねさす 日並べなくに 我が恋は 吉野の川
の 霧に立ちつつ